



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3601S		
科目名	危機管理実践研究 1		
担当教員	山下 博之		
対象学年	3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	集中		
講義室		単位区分	選
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード 学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E[学識・専門技能]専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP2-B[自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢]自己の存在意義を知り、自らを高め続けようとする努力することができる。 DP5-J[創造的挑戦力・達成力]コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。 DP6-K[表現力・対話力]文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-L[協働力・牽引力]集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連携を強めることができる。 DP8-M[省察力]知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■CRコード 学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 B1 自己啓発（10%） E1 学識と専門技能（30%） J2 継続的学修基盤、創造的思考（30%） K2 オーラル・コミュニケーション（10%） L1 チームワーク（10%） M1 統合的・応用的学修（10%）		
教員の実務経験	2009年から2015年にかけて消防庁所管のシンクタンクの研究員として、自治体の避難勧告・指示、情報伝達策、共助の育成方策、業務継続計画、自治体間連携、官民連携など、国、地方自治体の防災政策に関する調査、研究業務に従事してきました。 また、2019年度以降、栃木県中小企業団体中央会による「災害時応援協定締結支援事業」（栃木県委託事業）の講師・アドバイザー役として、各種中小企業の災害時応援協定及びBCPの取り組みを支援しています。これらの業務を通じて得られた実務上の知見や経験を活かし、本講義を展開していきます（第2回～第15回）。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	災害マネジメント領域の専門科目を通じて学んだ知見を、具体的な問題に適用して、グループワーク、ディスカッション、ディベート、ロールプレイ等の双方向型学修技法に基づき再構成し、実社会において応用可能で再生産可能なスキルへと昇華することを目指します。座学と演習を通じて、災害に直面した組織の情報収集・分析および意思決定の難しさに関して体験的な理解を深めることが本科目の目的です。		

	授業は対面で講義により行います。なお、授業の一部を補完するため、あるいは代替するためにディスタンスラーニング（遠隔授業）を取り入れる場合があります。	
授業の趣旨	■副題 巨大災害で被災した地域コミュニティの再生の方法と課題を体験的に学ぶ ■授業の目的 - 被災地の復興方策や課題を体験的に検討し、特に災害に対し地方が全国的に抱えている社会、経済上の問題点についての理解を深める。 - 上記の問題点を踏まえ、災害に対するレジリエンス（強靱性）の視点から自らの住む地域の望ましさを探求できるようになる。 ■授業のポイント 2011年3月11日に発生した東日本大震災による津波及び福島第一原子力発電所事故に伴う放射線被害に晒された福島県の相双地域では、事故後多くの住民が広域避難を行い、その多くが13年経った今も地域に戻っていません。このように災害によって崩壊したコミュニティをどうすれば再生することができるのか。再生するにはどのような課題があるのか。グループワーク、実地調査※を通じて検討します。 ※宿泊を伴う実地調査となる予定（1泊2日）。	
総合到達目標	■地方の地域社会、地域経済の現状と課題、災害に対する地方特有の脆弱性について意見を述べられるようになる。 E1 - 地方の地域社会、経済の全国的な現状、および災害に対する脆弱性について説明できる（第2回～第3回）。 - 全国及び同じ福島県の他地域と比較した相双地域の特徴について説明できる（第2回～第3回）。 - 自らの住む地域について、災害に対するレジリエンスの視点から自らの意見を説明できる（第2回～第15回）。 ■福島第一原子力発電所の事故及びその後の被災地の状況について説明することができるようになる。 E1 - 原発事故の概要について説明することができる（第4回～第5回）。 - 原発事故後の被災地の状況について説明することができる（第4回～第5回）。 ■グループによる各種作業を通じて成果物である企画書を作成し、提案できるようになる。 B1、E1、J2、K2、L1、M1 - 各種調査を通じて自らのグループの企画書の検討、作成に必要な情報、資料を集めることができる（第6回～第14回）。 - 各種調査を通じて得られた情報、資料をもとに自らの考えや意見をまとめ、他のメンバーと共有できる（第6回～第14回）。 - 各種調査を通じて得られた情報、資料及び他のメンバーの考えや意見を踏まえ、企画書を作成できる（第6回～第14回）。 - 上記の企画書をもとに、企画内容をわかりやすく的確に説明できる（第15回）。	
成績評価方法	■企画書素案の作成・報告 1回（30%）：適用ルーブリックB1、E1、J2、K2、L1、M1 （評価の観点）福島県相双地域の社会・経済上の課題を踏まえた素案が作成されているか、聞き手が理解できるよう報告できているかどうか等について評価します。 （フィードバック方法）発表時にその都度評価を行い、アドバイスします。 ■企画書の作成・報告 1回（40%）：適用ルーブリックB1、E1、J2、K2、L1、M1 （評価の観点）企画書の作成に当たって文献及び実地調査を通じたエビデンスの収集を十分に行なっているか、得られた情報を十分に踏まえた企画書が作成されているかどうか、聞き手が理解できるよう報告できているかどうか等について評価します。 （フィードバック方法）次の報告時にその都度評価を行い、アドバイスします。 ■授業参加度 15回（30%）：適用ルーブリックB1、E1、J2、K2、L1、M1 （評価の観点）授業への出席状況及び各授業回で実施する意見・質問シート、評価シートをもとに、授業に前向きに参加できているかどうか等について評価します。 （フィードバック方法）その都度、評価しアドバイスします。	
履修条件	実地調査には必ず参加すること。	
履修上の注意点		
授業内容	回	内容
	1	① 授業テーマ：ガイダンス：イントロダクション・チームビルディング ② 授業概要：B1、E1、J2、K2、L1、M1 本科目の目標や各授業回の内容、スケジュール、学修方法や参考資料等について説明できるようになる。 ③ 予習（60分）：本講座についてシラバスを通読しておく。 ④ 復習（180分）：シラバスをもとに、本講座についての自分の学習計画を立てる。
	2	① 授業テーマ：福島県相双地域の社会経済（1） ② 授業概要：E1

	福島県相双地域の社会経済について理解し、原子力発電所が設置された歴史的経緯について説明できるようになる。 ③ 予習（120分）：前回授業で配布した資料を読みレジュメを作成する。 ④ 復習（120分）：授業で得られた気づき、議論の争点となったポイントなどをノートに整理する。
3	① 授業テーマ：福島県相双地域の社会経済（2） ② 授業概要：E1 福島県相双地域の社会経済について理解し、原子力発電所が設置された歴史的経緯について説明できるようになる。 ③ 予習（120分）：前回授業で配布した資料を読みレジュメを作成する。 ④ 復習（120分）：授業で得られた気づき、議論の争点となったポイントなどをノートに整理する。
4	① 授業テーマ：東日本大震災と原発事故（1） ② 授業概要：E1 東日本大震災に伴って発生した原発事故の概要を理解し、被災地における避難指示の変遷と課題について説明できるようになる。 ③ 予習（120分）：前回授業で配布した資料を読みレジュメを作成する。 ④ 復習（120分）：授業で得られた気づき、議論の争点となったポイントなどをノートに整理する。
5	① 授業テーマ：東日本大震災と原発事故（2） ② 授業概要：E1 東日本大震災に伴って発生した原発事故の被災地における復興再生の取り組みと課題について理解し、説明できるようになる。 ③ 予習（120分）：前回授業で配布した資料を読みレジュメを作成する。 ④ 復習（120分）：授業で得られた気づき、議論の争点となったポイントなどをノートに整理する。
6	① 授業テーマ：被災地をどう立て直すか（グループワーク）（1） ② 授業概要：B1、E1、J2、K2、L1、M1 ・第14回まで共同で地域課題に取り組むためのグループを編成します。 ・原発事故の被災地における人口の社会増減に着目し、被災地の復興再生が直面する課題を検討し、説明することができるようになる。 ③ 予習（120分）：前回授業で配布した資料を読みレジュメを作成する。 ④ 復習（120分）：授業で得られた気づき、議論の争点となったポイントなどをノートに整理する。
7	① 授業テーマ：被災地をどう立て直すか（グループワーク）（2） ② 授業概要：B1、E1、J2、K2、L1、M1 原発事故の被災地における人口の社会増減に着目し、被災地の復興再生が直面する課題を検討し、説明することができるようになる。 ③ 予習（120分）：前回授業で配布した資料を読みレジュメを作成する。 ④ 復習（120分）：授業で得られた気づき、議論の争点となったポイントなどをノートに整理する。
8	① 授業テーマ：被災地をどう立て直すか（グループワーク）（3） ② 授業概要：B1、E1、J2、K2、L1、M1 原発事故の被災地における人口の社会増減に着目し、被災地の復興再生を実現する企画の素案を作成することができる。 ③ 予習（120分）：前回授業で配布した資料を読みレジュメを作成する。 ④ 復習（120分）：授業で得られた気づき、議論の争点となったポイントなどをノートに整理する。
9	① 授業テーマ：原発事故被災地域のフィールドワーク（1）（実地調査：1泊2日で実施する予定） ② 授業概要：B1、E1、J2、K2、L1、M1 ・実地調査1日目。 ・福島第一原子力発電所の事故後、復興再生の進められている地域や現在も帰還困難区域となっている地域の実地調査を行います。 ・実地調査を踏まえ、復興再生に関わる企画の見直す視点を得ることができる。 ③ 予習（120分）：前回授業で配布した資料を読みレジュメを作成する。 ④ 復習（120分）：授業で得られた気づき、議論の争点となったポイントなどをノートに整理する。
10	① 授業テーマ：原発事故被災地域のフィールドワーク（2）（実地調査：1泊2日で実施する予定） ② 授業概要：B1、E1、J2、K2、L1、M1

	・実地調査1日目。 ・福島第一原子力発電所の事故後、復興再生の進められている地域や現在も帰還困難区域となっている地域の実地調査を行います。 ・実地調査を踏まえ、復興再生に関わる企画の見直す視点を得ることができる。 ③ 予習（120分）：前回授業で配布した資料を読みレジюмеを作成する。 ④ 復習（120分）：授業で得られた気づき、議論の争点となったポイントなどをノートに整理する。
11	① 授業テーマ：原発事故被災地域のフィールドワーク（3）（実地調査：1泊2日で実施する予定） ② 授業概要：B1、E1、J2、K2、L1、M1 ・実地調査2日目。 ・福島第一原子力発電所の事故後、復興再生の進められている地域や現在も帰還困難区域となっている地域の実地調査を行います。 ・実地調査を踏まえ、復興再生に関わる企画の見直す視点を得ることができる。 ③ 予習（120分）：前回授業で配布した資料を読みレジюмеを作成する。 ④ 復習（120分）：授業で得られた気づき、議論の争点となったポイントなどをノートに整理する。
12	① 授業テーマ：原発事故被災地域のフィールドワーク（4）（実地調査：1泊2日で実施する予定） ② 授業概要：B1、E1、J2、K2、L1、M1 ・実地調査2日目。 ・福島第一原子力発電所の事故後、復興再生の進められている地域や現在も帰還困難区域となっている地域の実地調査を行います。 ・実地調査を踏まえ、復興再生に関わる企画の見直す視点を得ることができる。 ③ 予習（120分）：前回授業で配布した資料を読みレジюмеを作成する。 ④ 復習（120分）：授業で得られた気づき、議論の争点となったポイントなどをノートに整理する。
13	① 授業テーマ：原発事故の被災地における復興再生のための企画提案（1） ② 授業概要：B1、E1、J2、K2、L1、M1 ・原発事故の被災地の復興再生を目的とする企画書の完成するため、グループワークを行います。 ・原発事故の被災地の復興再生のための施策のポイントと課題、限界について説明することができる。 ③ 予習（120分）：ここまでの授業を踏まえ企画書を作成する。 ④ 復習（120分）：授業で得られた気づき、議論の争点となったポイントなどをノートに整理する。
14	① 授業テーマ：原発事故の被災地における復興再生のための企画提案（2） ② 授業概要：B1、E1、J2、K2、L1、M1 ・原発事故の被災地の復興再生を目的とする企画書の完成するため、グループワークを行います。 ・原発事故の被災地の復興再生のための施策のポイントと課題、限界について説明することができる。 ③ 予習（120分）：ここまでの授業を踏まえ企画書を作成する。 ④ 復習（120分）：授業で得られた気づき、議論の争点となったポイントなどをノートに整理する。
15	① 授業テーマ：原発事故の被災地における復興再生のための企画提案（3） ② 授業概要：B1、E1、J2、K2、L1、M1 ・各グループの企画提案内容のプレゼンを行います。 ・原発事故の被災地の復興再生のための施策についての企画内容をまとめたパワーポイントをもとに、自らの企画を説明し視聴者と議論することができる。 ③ 予習（120分）：自らの企画書に関するプレゼン用のパワーポイントを作成する。 ④ 復習（120分）：授業で得られた気づき、議論の争点となったポイントなどをノートに整理する。
関連科目	■専門展開科目（災害マネジメント領域） 災害と法（RMGT3401）、災害対策論（RMGT3501）、災害情報論（RMGT3502）、自然災害論（RMGT3503）、大規模事故論（RMGT3504）、地域防災論（RMGT3505）
教科書	その都度指示します。
参考書・参考URL	その都度指示します。
連絡先・オフィスアワー	初回授業時に案内します。

研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント70%：パブリックセキュリティ10%：グローバルセキュリティ10%：情報セキュリティ10% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学70%：法学30%
------	--

